



コスタリカ国草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 14

2016.12.15

～歩き始めたグループ～

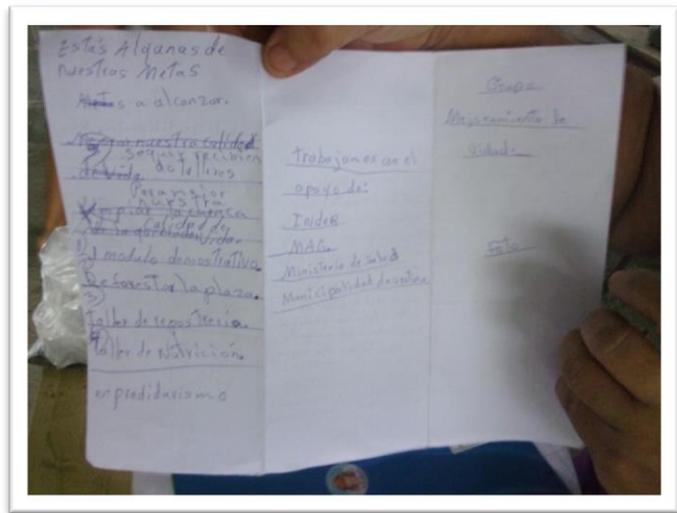
NPO 法人イフパット 研究員 小林沙羅
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

先週振り返りを行ったセバディージャ村に再び行ってきました。前回の続きの高倉式コンポストの講習最終回と計画作りのための「幸せの木」を再度実施することを予定していましたが、車両の問題で到着時刻が大幅に遅れ「幸せの木」は来週に延期しました。その代り、今回は手法などを使わずじっくりセバディージャのグループメンバーと話すことが出来ました。今後どのように活動を進めていくつもりかを尋ねたところ、既にグループは自分達で二週間に一度の頻度で定例会を始めていたことがわかりました。フローリーという以前から積極的に参加していた女性の家に集まり、今後の活動やグループの目的について話し合っているらしいのです。グループとしては、今後食生活の改善のための講習会を受けたいという声が挙がっていることと、地域のための活動として今自分たちの家で行っている家庭菜園の経験を活かして集落に普及するための展示用圃場をしたいということと、集落の広場の周りに木を植える、行政と交渉しながら集落の集会場を持ちたいなどの新しいアイデアが挙がっていました。



また、グループの目的や活動を説明するためのリーフレットを作りたいと言うことで、手書きの原案を見せてくれました。台所や住宅の改善を意欲的に行ってきたエルサという女性が、ボランティアでこのリーフレットをパソコンに落とし印刷すると言うことでした。これにはファシリテーター一同驚きました。リーフレット作成と聞いた時、お金がかかるのでは…と言いかけてしようとしたのですが、すぐに「私の娘はパソコンを使ったり、デザインが上手いので自分達で作れる」との答えでした。実はこの娘さんは、前回わかったお揃いのTシャツのデザインを作ったのと同人物です。Tシャツのロゴは「生活改善を通じて世界を良くしたい」という思いで、地球を施したのだそうです。

もともとリーフレットを作りたいと思ったのは、来年1月に予定しているサンタリタ村との経験交換の際にそれぞれの村の活動を発表することになっていたのですが、人前に立って発表することが得意でないためリーフレットを配ったらどうかという発想からだったそうです。特にセバディージャのメンバーからは人前で話すことについて「緊張、躊躇を感じる」という言葉が聞かれており、当初はワークショップでの発表の際もなかなか手が挙がりませんでした。



代替策として自分達のリーフレットを作るとは新しい発想でした。

予想外の進展に、村からの帰り道ファシリテーターである市役所の職員も興奮した様子でした。グループのメンバーのことを大いに褒め、励まし村を後にしました。